

小さな町の素敵な音楽祭

# 第21回木曾音楽祭

1995年8月25日(金)▶8月27日(日)

会場＝木曾文化公園文化ホール

(’95長野県芸術祭県民芸術劇場参加)〈宝くじ助成事業〉

## 8月25日(金)19:00 フェスティバル・コンサートⅠ

モシエコフスキ 2つのヴァイオリンとピアノのための組曲ト短調 op.71  
(久保 漆原 迫)

ブラームス ホルン三重奏曲変ホ長調 op.40 (松崎 数住 寺嶋)

ラフマニノフ 2台のピアノのための組曲第2番 op.17 (迫 寺嶋)

モーツァルト セレナーデ第12番ハ短調「夜曲」K.388  
(小畑 森枝 山本正 磯部 松崎 山本真 前田 吉田 星)

## 8月26日(土)14:00 マラソン・コンサート

ベートーヴェン 交響曲第7番イ長調 op.92 (管楽八重奏版)より第1楽章  
(小畑 森枝 山本正 磯部 松崎 山本真 前田 吉田 星)

クライスラー ブニャーニの様式による前奏曲とアレグロ (漆原 寺嶋)  
他

## 8月26日(土)19:00 フェスティバル・コンサートⅡ

ボザ 管楽八重奏曲  
(小畑 森枝 山本正 磯部 松崎 山本真 前田 吉田)

レーガー クラリネット五重奏曲イ長調 op.146  
(山本正 数住 漆原 菅沼 花崎)

フランセ 弦楽三重奏曲「ディヴェルティメント」 (漆原 生沼 菊地)

ベートーヴェン ピアノ三重奏曲第7番変ロ長調「大公」 op.97  
(久保 秋津 迫)

## 8月27日(日)15:00 フェスティバル・コンサートⅢ

ラヴェル 弦楽四重奏曲へ長調 (数住 平沢 生沼 秋津)

ラヒャ 八重奏曲変ホ長調 op.96  
(小畑 磯部 吉田 山本真 漆原 平沢 生沼 花崎)

ブラームス ピアノ四重奏曲第3番ハ短調 op.60  
(久保 菅沼 秋津 野島)

都合により出演者、曲目等が変更になる場合がございますので、あらかじめご了承下さい。

### 出演者

ヴァイオリン	久保陽子	数住岸子	漆原啓子	平沢仁
ヴィオラ	菅沼準二	生沼晴嗣		
チェロ	秋津智承	花崎薫	菊地知也	
コントラバス	星秀樹			
オーボエ	小畑善昭	森枝繭子		
クラリネット	山本正治	磯部周平		
ファゴット	前田信吉	吉田将		
ホルン	松崎裕	山本真		
ピアノ	野島稔	迫昭嘉	寺嶋陸也	

ディレクター 数住岸子 山本正治  
企画・制作 日本アーティストマネージメント

### 〈入場料〉

フェスティバル・コンサート 各1回—— 大人 ¥3,500 小中学生 ¥2,000  
マラソン・コンサート —— 大人 ¥2,500 小中学生 無料  
コンサート通し券 —— 大人 ¥8,000 小中学生 ¥5,000  
(通し券は木曾福島町教育委員会のみ発売です)

主催＝木曾音楽祭実行委員会・長野県・長野県教育委員会  
木曾福島町・木曾文化公園

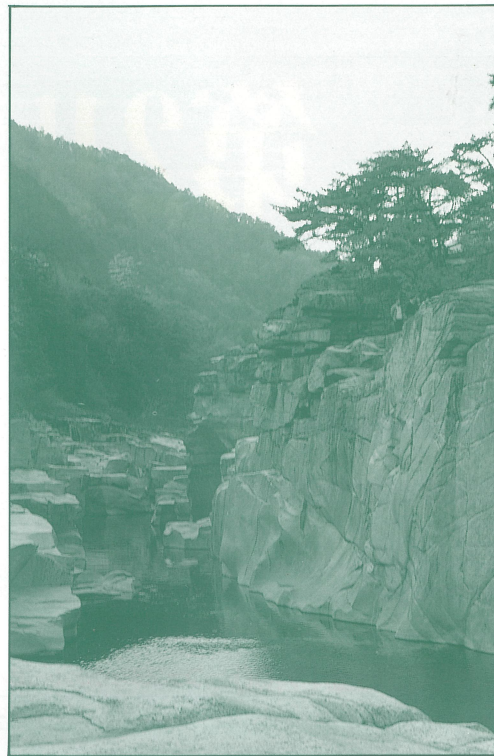
後援＝(財)地域創造・信濃毎日新聞社 協賛＝日本製紙株式会社

お問合せ・電話予約＝木曾福島町教育委員会 0264(22)2251  
日本アーティストマネージメント 03(3294)9999  
プレイガイド＝チケットぴあ東京03(3237)9990・名古屋052(320)9999 / 木曾郡内各書店  
スタジオ・ルンデ052(203)4188 / 名鉄観光サービス各支店  
宿泊のお申し込み・お問合せ＝おんたけ観光0264(22)2568

「山田かまち水彩デッサン展」 8月8日(火)→30日(木) 開館時間＝10:00→18:00(入館は17:30まで)  
会場＝木曾文化公園「駒っこホール」 お問合せ＝木曾文化公園 Tel.0264(23)8011



# 涼しげな一枚のチラシに誘われて……



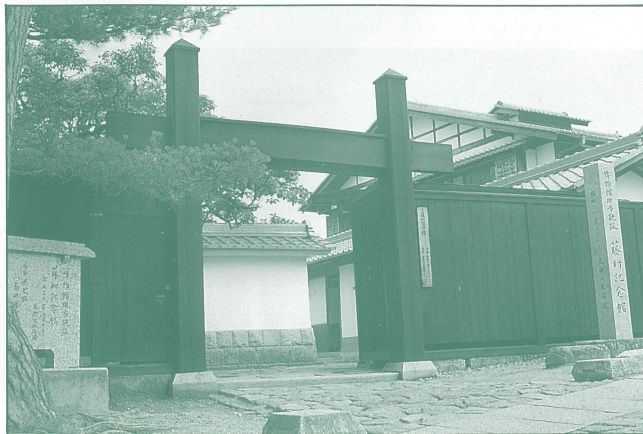
猛暑と喧騒にいや気がさし、ふと目にした涼しげな一枚のチラシに誘われて木曾へ……。是より北木曾路」の石碑を目にする、確かにその先の道は深い谷へと続いている。「木曾路はすべて山の中」と思いつつ……。妻籠・馬籠」の宿場町。江戸時代そのままの町並の中、縁側で五平餅を頬張っているとなぜか懐かしく思う。日本人の血かと思いがちながら北へ……

木曾川がますます川幅を狭めはじめたところに、奇妙な風景があった「寢覚の床」。花崗岩が川の両側に垂直に切り立ち、その上に小さな祠がある。おそろおそろ下を覗くととても深そうな淵が緑色をし、山の木々の色を写し採ったようだ、息を呑む。こういう風景には伝説がつきものでここにもあった。あの浦島太郎が龍宮から戻って玉手箱を開けたのがこの大きな岩の上。愛用の釣竿まで残っている。

こんな山奥まで来たカメはさぞ大変だったろうと思ひ脇道へ入る。前を川、背後が山、ここを通るしか他に手はなかったであろう場所に「福島関所跡」。

日本四大関所のひとつとして、「入り鉄砲」に「出女」を厳しく取り締まり、徳川三〇〇年の歴史を守った。また脇道へ……。路肩のそここに肩を寄せ合い、手を握り合う男女の仲睦まじい姿が彫られた石碑が置かれている。「道祖神」。男女円満の形が心疾しいよそ者を尻込みさせるといふ。私は尻込みせずに縁結びのご利益の方を祈願しつつトンネルを抜ける……。道の両側に白樺林、今までの風景から一変し、広々とした「開田高原」。

今の時期そばの花が咲いていると聞き、地図を頼りに行ってみる、なんと可憐な花であることが、想像もしていなかった私には刺激的な眺めだ。白い雲、青い空、霊峰御岳が正面にそびえ、白い小さな花が一面に……。秋にもう一度来よう。中央アルプスが夕日に染まり美しい、ここが旅の最終目的地「木曾駒高原」。小川を眺めつつぶらぶら歩いていると、アルプホルンが聞こえてきた。どうやら開演の合図らしい……。



木曾福島駅⇄木曾文化公園 臨時バス運行表  
(料金 大人370円 小人190円)

	木曾福島駅発	木曾文化公園着	木曾文化公園発	木曾福島駅着
8月25日(金)	18:00	18:30	21:00	21:30
8月26日(土)	13:00 18:00	13:30 18:30	16:00 21:00	16:30 21:30
8月27日(日)	14:00	14:30	17:00	17:30

(木曾福島駅行きバスの発車時刻は終演時間によって前後致します)